登山月報

第8回 ボルダリングジャパンカップ、駒沢オリンピック公園で開催 …… 1
平成24年度 評議員会報告…… 2
第51回 Mountain World …… 6
第7回 山岳スキー競技世界選手権大会報告…… 7
山岳スキー・アジアカップ第1戦＆韓国選手権 …… 8
史占春元中国登山協会主席の想い出…… 9
平成24年度 ジュニア・普及情報交換会報告 … 11
第51回 海外登山技術研究会報告…… 12
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 13

第8回 ボルダリングジャパンカップ、駒沢オリンピック公園で開催

２月23、24日、東京・駒沢オリンピック公園球技場において、マムートジャパンのスポンサードにより、第８回ボルダリングジャパンカップが開催された。

国内大会となるとこれまで、観客は関係者がほとんどという状態であったが、さすが東京、さらにボルダリングブームもあいまってか、1,000人近いギャラリーを数えた。

参加者も男子100名、女子49名という歴代最高の人数となり、男女ともＡ、Ｂ、ふたつのグループに別れての予選となった。それでも９時に開始した競技が終了したのは18時ごろ。各グループから10名、計20名（女子はタイが出て24名）が選ばれたが、女子で三上智子、倉菜々子、２名の12歳の選手が通過したのは驚きだった。

翌日は男女同時に準決勝が行われた。20名から６名というまさに狭き門。男子は堀創と杉田雅俊が全４課題を完登。ほか４名が３完登で続く。女子は野口啓代のみが３完登、あと５名が２完登で続いた。

男子決勝となると新人は影を潜め、リザルトのメンバーを見ていただければ分かるが、まさにオールスター。この誰が優勝してもおかしくない状況の中、ただひとり３課題に成功したのはリードの世界チャンピオン、安間佐千であった。

駒沢オリンピック公園屋内球技場の大会々場

女子決勝は野口のまさに圧勝。２位の小田が２完登、ほかの４名は１完登という、女子にとってはかなり厳しめの内容であったのにも関わらず、なんと全課題をオンサイト。他をまったくよせつけない強さで連勝記録を８に伸ばした。野口が現在の実力を維持すれば10連覇は固いだろう。

ちなみに、女子とは対照的に男子は、これまでこの大会で連勝はおろか２回優勝したものはいない。歴代のチャンピオンは、茂垣敬太（神戸大会）、村岡達哉（加須）、渡辺数馬（竹田）、杉田雅俊（川越）、堀創（深谷）、清水淳（長崎）、新田龍海（長崎）、そして今回の安間である。　（文＝北山、写真＝山本浩明）

優勝した野口（左）と安間

平成24年度 評議員会報告

日　時　平成25年２月17日（日）
10時30分～14時40分
会　場　ＴＫＰ渋谷カンファレンスセンター５Ｂ会議室
（東京都渋谷区渋谷２-17-３　渋谷東宝ビル）

１.開　会

尾形専務理事の挨拶で開会

２.会長挨拶

神﨑会長から本会は平成25年４月１日より公益社団法人としてスタートする。移行への事務的な手続きは整った。あとは意識改革が必要である。これから責任ある団体として日山協の理念を明確にし、目的を理解して強いリーダーシップを発揮してわが国の登山界を牽引していきたい。そのためにも47プラスα体制の構築や登山者登録制度などは早急に取り組みたい。その他山積する課題については、プロジェクト・チームと４つのワーキング・グループで、出来るものから早急に解決を図りたい。と挨拶。

３.定足数の確認

尾形専務理事から定款第26条に基づき、定足数並びに出席者・委任者数を発表し、会議が有効に成立した旨報告される。

定足数　：32名（評議員定数47名の３分の２以上）
出席者数　：評議員41名、委任状６名、合計47名
常務理事15名、監事２名

出席者（評議員）

神山健（北海道）、川端満（青森）、武田勝栄（岩手）、齋藤英次（宮城）、佐藤健（秋田）、青木健一（山形）田所洋一（茨城）、東和之（栃木）、角田守（群馬）、天野賢一（埼玉）、岩崎喜司（千葉）、宮地由文（東京）、石塚孝彦（神奈川・代理）、小宮山稔（山梨）、遠藤俊一（新潟）、大西浩（長野）、開澤浩義（富山）、亀田行宣（石川・代理）、渋谷好司（福井）、塩澤寿雄（静岡）、北村憲彦（愛知）、門山信男（三重）、塚原孝司（岐阜・代理）片岡幸一（滋賀）、飛田典男（大阪）、古賀英年（兵庫）、藤本直民（奈良）、小坂秀巳（鳥取）、佐々木章（島根）、山田雅昭（広島）、岡本洋一（山口）、明上邦彦（香川・代理）、椎野彰浩（徳島・代理）、宮崎良平（高知・代理）、山上司（福岡）、多田修（佐賀・代理）、西本　安幸（熊本）、原勇人（大分）、古里亜夫（宮崎）、中尾敏宏（鹿児島）、田場典淳（沖縄・代理）

出席者（常務理事・監事）

神﨑忠男（会長）、内藤順造（副会長）、國松嘉仲（副会長）、八木原圀明（副会長）、松元邦夫（副会長）、尾形好雄（専務理事）、仙石富英（普及）、相良忠麿（財政）、西内博（遭対）、佐藤光由（国際）、石倉昭一（自然保護）、高山雅夫（競技）、水島彰治（広報）、谷口浩平（ジュニア）、堀井昌子（医科学）、福田昇（監事）、岡本忠良（監事）

（同席者）

鈴木由郎（指導常任委員・永井常務理事代理）

４.議長選出

定款第25条に基づき評議員の中から小宮山稔（山梨）、藤本直民（奈良）を議長に選出。

５.議事録署名人の選出

定款第30条に基づき、以下の２名を議事録署名人として選出。青木健一（山形）、片岡幸一（滋賀）

６.議　事

第１号議案　平成24年度事業経過報告について
第２号議案　平成24年度会計中間報告について

議長より第１号議案、第２号議案は関連議案につき一括説明の後、質疑を受けたいと提案され、了承された。

尾形専務理事より資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと述べ、各事業報告については、各専門委員会の担当常務理事から補足説明があった。

続いて、相良常務理事から平成24年度会計中間報告について説明があり、質疑に入った。

＊神山（北海道）：スポーツクライミング（以下ＳＣと記す。）主任検定員の承認者20名が『登山月報』1月号に掲載されているが、茲に承認されていない者は、次期の更新ができないのか。

◎鈴木：保留になった何名の方は、資格の有効期間内に行われる次の講習会を再度受講して頂き、合格して貰いたい。

＊神山（北海道）：９月の講習会では、検定的なものが無かったと聞いている。３グループの内、実技は１

グループだけで、実技の補助だけをした者が合格して、実技をした者が不合格になっている。認定基準及び不認定事項を示して貰いたい。
◎鈴木：本日、指導委員長が不在のため詳しいことが良く判らないので、持ち帰って文書で回答したい。
＊田所（茨城）：アルパインの主任検定員養成講習会でも同様なことが起こった。何故不合格になったのかが判らないため、受講者には不信感が募った。不合格の事由がはっきりしていないので、対処のしようがない。資格制度の信用にも関わるので、是非、検定基準を明確にしてほしい。
◎鈴木：検定基準に基づいて検定しているのだが、判定をする運用面で完全ではないようだ。一応、不合格者にはその事由をつけて岳連宛てに連絡しているが、その事由書が短文過ぎて、理解して頂けないのだと思う。検討したい。
◎議長：移行検定講習会については、未だ質問者が納得されてないようですので、検定基準の明確化など検討していただきたい。
＊川端（青森）：管理費支出の人件費等の各事業への配賦は何を基準に行っているのか。
◎尾形：事務局員の従事割合で配賦している。
＊飛田（大阪）：①ＳＣ指導者養成講習会の参加者総数を教えて貰いたい。②アルパイン指導者養成講習会の実施状況を教えて貰いたい。③ロープの強度試験の実施について３岳連ほどのごく一部の人たちだけで満足するのではなく、もっと広い範囲に周知されて成果を共有して貰いたい。④2012 NamBa HIPS Cupの後援記載が無いが、何故か。⑤日山協の後援名義のメリットにはどのようなものがあるのか。
◎鈴木：①②についてお答えする。これらの参加者及び認定者等については、その都度『登山月報』に掲載するようにしている。今、手元に資料がないので後日お知らせしたい。
◎尾形：これらの参加者総数については３月の臨時総会資料に記載したい。それから③については、機関誌、ホームページ等で広く告知していきたい。④の2012年の後援名義は平成24年２月に後援承認をしているため平成23年度事業報告に記載してある。⑤については当方としてはどのようなメリットがあるのか判らない。申請する団体なり事業内容から申請者が何らかのメリットを考えて申請しているのだと思う。
◎西内：ロープ強度試験の件について広い範囲に広報することはやぶさかではないが、現在のところアバウトな試験なので、そこから得られた数値だけが一人歩きすると誤解を招き易いので、成果を共有するというのは難しい。どのような試験をすれば結果を公表できるようになるのか試行錯誤しているところだ。
＊飛田（大阪）：強度のデータ等については私も危惧している。そうであればＵＩＡＡ基準を満たすような公的機関の施設で試験をし、試験結果が一部の人たちの自己満足ではなく、公表できるような道筋をつけていただきたい。
＊川端（北海道）：指導委員総会では映像で実験状況を見せており、大変参考になっている。
◎西内：指導委員会でやっているのは１人に加重をかけた場合で、レスキューでは３人に加重をかけた場合を試験しており、そうすると試験結果が違ってくる。ロープの結束方法にしても条件付きで説明しないとどれが良くてどれが悪いか判らない。成果が一人歩きすることへの懸念がここにある。
＊川端（北海道）：指導委員会でもそのへんのところはきちんと説明して紹介している。
＊飛田（大阪）：ルートセッター及び審判員のＣ級、

Ｂ級、Ａ級へのステップが取得し難い環境にある。例えば本国体、ブロック大会以外に公認大会を増やすなどの改善を検討して頂きたい。
◎高山：審判員については昨年Ｓ級のクラスを設けたのでＡ級の方はＳ級に、Ｂ級の方はＡ級にと１ランク上がった。これによってＣ級からＢ級に昇級した方はかなり増えた筈である。平成25年度には国体山岳競技規則集の改訂を予定しており、Ｂ級昇級についてはブロック大会規模の審判回数を４回から３回に減らすなど取り易い環境を検討している。
＊飛田（大阪）：公認大会の範囲を明確にしてほしい。
◎高山：Ａ級審判員が２名いる大会であれば公認大会にすることはできる。
★第１号議案、報告通り承認
★第２号議案、報告通り承認

第３号議案　平成24年度事業計画案について
第４号議案　平成24年度収支予算案について

議長より第３号、第４号議案は関連議案なので、一括説明の後、承認を諮りたいとの提案があり、了承された。

先ず、尾形専務理事より議案書に基づいて平成25年度の事業計画方針案及び予算編成原案について説明した後、各専門委員会の担当常務理事から各事業計画の補足説明があった。

続いて、相良常務理事から新公益法人会計様式による平成25年度収支予算案について説明があり、
質疑に入った。
＊飛田（大阪）：①ＳＣの選手育成事業計画について②ＳＣ上級指導員養成計画について③東京国体から導入される監督資格の取得実態について④未組織登山者の囲い込みについて、共済会加入者を保険加入プラス個人登録としてはどうか⑤日本の登山人口の１％が組織登山者と云うのであれば残りの99％の登山者へ声をかける取り組みを積極的にして貰いたい⑥各岳連（協会）で既に実施している個人会員の位置づけについて⑦遭難事故件数を減らすための具体的なターゲット目標について⑧競技運営費支出と他の専門委員会支出との予算バランスについて⑨トレランの取り組みについて⑩ＪＯＣにおける山岳の位置付と補助金額について
＊原（大分）：審判・セッター会議の予算科目があるが、事業計画の説明がなかったので、内容について説明願いたい。
＊渋谷（福井）：岳連で開催する遭対技術研修会の技術資料として日中韓技術研修会などの映像を頂きたい。（要望）
◎高山：新規事業として審判・セッターに共通理解をして頂くために全国会議を３月頃に開催したい。飛田氏の①はＮＦとしてジュニアからの一貫指導体制などの整備が遅れているのが現状③は平成25年度中に公認スポーツ指導者の受講を開始しておれば良い事に変更になった。資格の取得実態については、日体協の調べでは岐阜国体では約40％取得との事。
◎鈴木：②この制度ができて未だ３年目なので、先ずＳＣ指導員養成に力を注いでいるため、上級指導員の養成は後手に回っている。
◎西内：⑦一般登山者への遭難対策については、オーバーナイト・テントフォーラムのような形でやっても対象者の数が多過ぎて手が回らない。そのためにハイキング・リーダー制度のような指導者養成を考えているが、調査してみると山ガールや一般登山者はリーダーになるつもりはなく、指導者講習会などで募集しても人が集まらない。これらの層の人たちはガイド登山やツアー登山に参加している。既存の指導員の活用を含めて日山協として安全登山の指導体制をどう構築して事業をどのように展開すべきか考えていきたい。
＊飛田（大阪）：事故の実態としては相変わらず中高年登山者の事故が多いわけですよね。
◎西内：最近は30～50代のアルパイン系の事故が増えている。
＊飛田（大阪）：事故件数の母数の多いところと若いアルパイン系の事故をターゲットとした両面作戦でいかないと事故は減らないのではないか。
◎尾形：⑧の予算バランスについてはおっしゃる通りで、競技関係支出は増加の一途にある。登山部門にカンフルを打っていかないと両輪均等のバランスが保てなくなる。唯、公益目的事業比率が50％以上という枠があるので、会員や委員向けの事業で旅費支給となると、これは法人管理費支出となり、公益目的事業比率が下がるので、考えなければならない。どのような事業展開が望ましいのかについては事業ワーキング・グループで検討中である。⑩はオリンピック種目競技で無いので評価は低い。補助金額は予算書で提示したように280万円程度である。④⑤⑥⑨については現在４つのワーキング・グループで取り組んでいる課題であり、年度末には出来るものからある程度の指針を提示したい。
＊北村（愛知）：平成25年度事業方針の１行目に「従

前通り」と記載されているが、ここは「従前より広く」と方針を訂正すべきではないか。それと公益社団法人の傘下団体として県岳連はどのように対処していけば良いのかご教示願いたい。
◎尾形：事業方針の文言は訂正したい。公益社団法人になるとどう変わるのか、については、この度の内閣府への申請にあたって公益社団法人のための新規事業は一つも申請していない。平成24年度事業計画及び予算を基に既存事業を公益目的事業として申請した結果、公益目的事業比率88.3％として認定された。事業によっては、開催要項、参加資格、助成事業などに多少訂正しないと難しいものがあるので、これらについては手続き、プロセス等をまとめた指針を提示するので、それに従って対処して頂きたい。
＊門山（三重）：各岳連が主催する公益目的事業は助成の対象となるのか。先程の遭難防止対策なども日山協だけにお願いするのではなく、各岳連でもこれらの事業をやらなければ事故は減らないと思う。
　公益社団法人になった場合、各岳連の会計報告はどのようになるのか。統一した様式が示されるのか。
◎尾形：事業の助成に関しては、予算書に提示した少年少女登山教室事業費や安全登山推進事業費などを活用して頂きたい。
　会計報告については、各岳連（協会）は、支部ではなく、加盟団体の位置づけなので、連結決算は求められていない。従って、会計報告は従前通りの報告で構わない。
★ 第３号議案は、提案通り承認
★ 第４号議案は、提案通り承認

第５号議案　平成24年度共済会事業経過報告について
第６号議案　平成25年度共済会事業計画案及び予算原案について

　議長より第５号、第６号議案は関連議案なので、一括説明の後、承認を諮りたいとの提案があり、了承された。
　尾形専務理事より平成24年度共済会事業経過報告及び平成25年度共済会事業計画案及び予算案について議案書に基づいて説明があり、質疑に入った。
＊飛田（大阪）：郵便振替手数料の予算が450万円とあるが、これについて説明願いたい。
◎尾形：これは郵便振替手数料を加入者負担にしているので、その手数料である。年会費を忘れて追加振込みをする場合の手数料は、本人負担でお願いしている。
＊飛田（大阪）：本人が郵便振替口座を開設している場合、口座間では振込み手数料がかからない筈なので、この経費削減を検討して貰いたい。
★ 第５号議案は、提案通り承認
★ 第６号議案は、提案通り承認

第７号議案　平成24年度臨時総会について

　尾形専務理事から議案書に基づき３月10日の臨時総会の議案について提案説明。
＊開澤（富山）：公益社団法人移行に伴う理事の選任について教えてほしい。
◎尾形：理事については、現行理事31名の内７名の理事に辞任して頂き、24名の理事で４月からスタートする。辞任する７名の理事は、ブロック選出理事が２名のところを１名にさせて頂く。５月の通常総会で平成25年度～26年度の１期２年の新役員を選任する。昨年の総会で会長、副会長３名、監事３名は承認されているので、新たに選任するのは21名の理事である。
★ 第７号議案は、提案通り承認

７.報告事項

①公益社団法人移行について

　尾形専務理事より「変わる！日山協」のリーフレットをもとに移行への経過報告、公益社団法人とは、（公社）日本山岳協会のしくみと体制、（公社）日本山岳協会が目指すもの等について説明があった。

②ＵＩＡＡ，ＵＡＡＡの総会・理事会報告

　報告は資料を読んで頂き、平成26（2014）年にＵＡＡＡ創立20周年記念式典を広島で開催することが報告された。

③第52回全日本登山体育大会について

　茨城の田所評議員より開催概要の説明があり、多くの参加を呼びかけられた。

④変わる！日山協プロジェクト・チームについて

　尾形専務理事より資料にもとづいてプロジェクト・チームと４つのワーキング・グループの取り組み状況について報告があった。

⑤その他

　大西（長野）：山岳図書資料館への図書寄贈及び長野県山岳総合センターの利用についてのお願いがあった。

８.閉　会

　尾形専務理事の閉会宣言で閉会となった。

第52回 Mountain World

アメリカ人のエヴェレスト50周年

池田常道

ジョン・ハント率いる英国隊が歴史的な初登頂に成功してから60年になるが、それから10年遅れで米国隊も「金婚式」を迎えた。1963年に行なわれたその遠征は世界最高峰の第３登にとどまらず、その後のヒマラヤ登山に大きな示唆を与える壮挙だった。現在のヒマラヤ登山では、ほとんどの隊が先人の足跡を追うことになんの違和感も抱かないようだが、当時のヒマラヤは、誰も成し遂げていないテーマを抱いて挑戦するものだった。エヴェレストにおいては65年インド隊、70年日本隊、73年イタリア隊などが通常ルートから登頂を繰り返したが、1960～70年代は、他の8000m峰を見わたしても、そういった例はむしろ少なく、まずは新ルートを狙うのが常識だった。

1960年、ジョン・F・ケネディは大統領指名受諾演説で「ニュー・フロンティア」を見つけることを米国民にうながした。ヒマラヤ登山の偉大な先駆者、ギュンター・オスカー・ディーレンフルトを父に持つノーマン・ディレンファース（スイス生まれだが、米国に移住したので父と違って英語ヨミされる）が、アメリカ人を世界最高峰の頂に立たせようと計画を練りはじめたのは、ちょうどそんな時期にあたる。チャールズ・ハウストンのナンダ・デヴィ（1936年）やK2（1938年、1953年）のあと、アメリカ人がやった大登山といえば1958年のガッシャブルムⅠ峰や60年のマッシャブルム初登頂ぐらいしかなかったから、ディレンファースのプランは時宜にかなったものだった。とはいえ、「エヴェレスト登頂はすでに成された」と考える米国民の目には、なんでいまさら……という冷ややかな視線があったことも事実で、資金調達は難渋した。

商才にたけたディレンファースは、頂上から別ルート（西稜）を下るなら大衆の耳目を引くだろうと、有力隊員候補のトーマス・ホーンバインに打診すると、それなら新ルートを登ったほうが面白いという返事が返ってきた。登山者の心理として、ようやくたどり着いた頂から未知のルートを下る危険を冒すより、最初から困難に立ち向かったほうがいいというのだ。というわけで、アメリカ初のエヴェレスト計画は西稜とサウス・コルの二本立て興業として発足した。しかし、この手の作戦は、得てして確率の高いほうにウェイトがかかる。1970年の日本山岳会隊、73年のRCCⅡ隊の例を引くまでもなく、サウス・コルから頂上を往復したほうが確実であることは言を俟たない。ディレンファース隊も、スポンサーのナショナル・ジオグラフィック協会が、すべてに優先して頂上に立つアメリカ人のショットを望んだために、まずサウス・コルから登頂できたらという留保が付いていた。ところが、ジム・ウィッテカーとナワン・ゴンブの第一次隊は５月１日に早くも頂上を陥れてしまう。スポンサーへの義理を果たした一行は、まだ十分に残されていた物資と人員を投入して本来の計画を遂行する自由を得た。西稜からの登頂とそれをサポートするサウス・コルからのいま一度の登頂である。義理を果たせないまま登山終盤を迎えて南西壁を放棄した日本隊（70年、73年）とのちがいはそこにあった。

西稜隊は、すでに7650mまでルートを開拓して、偵察を終えていた。アタック・メンバーはウィリアム・アンソルドとホーンバイン、サウス・コル組はバリー・ビショップとルート・ジャースタッド。西稜と呼んでも、このときアメリカ隊がたどったルートは、西稜の肩からチベット側の北壁へと越境して、そこに刻まれた顕著なクーロワールをたどるものだった。現在、ホーンバインの名を冠して呼ばれるクーロワールがそれだ。アンソルドとホーンバインは、8300mに置いた最終キャンプから標高差500m以上も未知の領域を固定ロープなしで踏破した末、頂上に立った。そして、サウス・コルへと下降する途中、ビバークしていたビショップとジャースタッドに合流し、首尾よくエヴェレスト初の縦走を完遂したのだった。

エヴェレストにおいてこれに匹敵する登攀が成されるのは、ドゥーガル・ハストンとダグ・スコットが南西壁から頂上に立つまで12年の歳月が必要だった。

エヴェレスト西稜の立役者、ホーンバイン

第7回 山岳スキー競技世界選手権大会報告

2013年２月９日から15日までの日程で、フランスのローヌアルプス地方の小規模なスキーリゾート地ペルヴューとプイサンビンセントで第７回山岳スキー競技世界選手権大会が開催された。参加はヨーロッパを中心に22カ国。初参戦国はロシア一国のみであった。

日本からは、北海道札幌の藤川健選手、石橋恭選手、山梨県から小川壮太選手の男子３名に女子は岐阜県の田近郁美選手の計４名の参加となった。日程が長く休みがとりにくいこと、参加費がかさむことなどから、参加選手が前回より少なかったのが残念である。ただ今回初参加の小川壮太選手はトレイルランニングのトップ選手でマラソンでも２時間19分の記録を持つ選手。また、唯一の女子、田近郁美選手は、マウンテンバイクでは日本代表経験もある選手で、共に実力を備えた選手である

大会初日２月10日、大会のハイライト２人一組で走るチームレースが実施された。コースは標高差上り2260m、下り2250m。さらにアイゼンを使ってルンゼを登るセクションや1380mを途中100mの登りを挟んで一気に下るなど、非常にダイナミックなコースであった。トップのフランスチームのタイムは２時間32分17秒、藤川・石橋組は33組中30位（４時間24分36秒）。まだまだ世界の壁は厚いのを実感させる。アメリカやカナダなど北米組が実力をつけ上位に食い込む選手がでてきたのは興味深い。これは欧州に在住する同国人がレース経験を積んだりして実力をつけたとのことである。

スプリント　前回から始まった新しい種目で今回のコースは男女同じ標高差登り80m、下り100mの斜面を一周して速さを争う競技。初め全員が参加し上位

から30位で準々決勝、準決勝、決勝となる。観客にデッドヒートが見える形を狙ったものだ。成年男子１位はドイツのロットモーザ選手で２分35秒、小川壮太選手53位（４分05秒）、藤川健選手54位（４分06秒）、石橋恭選手59位（４分24秒）。（60人完走）

成年女子１位スイス代表リチャーズ03分29秒、田近郁美選手は35位（５分22秒）。（36名完走）

個人戦　成年男子登1645m、下り1640ｍ１位１時間22分36秒と２位はフランスで３位にスペインのキリアンが入った。小川壮太61位（２時間38秒）、藤川健63位（２時間４分13秒）、石橋恭66位（２時間16分34秒）。（出走73名）

成年女子登り1385m、下り1380m。１位フランスのロー１時間20分３秒、田近郁美40位（１時間８分34秒）。（出走43名）

バーチカル　成年男子女子ともに同じ標高差610m。男子１位はスペインのキリアン25分33秒６、小川壮太67位（33分25秒４）、72位石橋恭（35分53秒６）、74位藤川健（36分45秒9）。（出走75名）

成年女子１位フランスのロー30分28秒５、田近郁美37位（42分43秒４）。（出走40名）。

リレーは人数が足りなくてチームが組めず、不参加となった。

大会全体を通して、シール着脱セクションでのスキーストックを雪面に置くことや、シールを脱着後きちんと服の中にしまいジッパーを閉めることなど、の規定違反に対しペナルティーがかなり厳しく裁定されており、上位選手でも例外なく課せられていた。日本選手の中でも30秒から１分ペナルティーを取られる者が出た。競技規則は、毎年変わるので常に最新の変更をチェックしておく必要を痛感した。大会会場の

雰囲気は各選手が各自のブログで紹介してくれていて、かなりの人が見ていたようだ。特に小川選手のfacebookは160人から応援反応があった。小川選手の参入をきっかけにさらにトレラン界から参加が増えると面白い。ヨーロッパでは山岳スキー競技とトレランはスペインのキリアン選手など同じ選手が出ている例が多く、小川君も冬期のトレランの訓練として山岳スキー競技は有効では、とコメントしている。

（山岳スキー競技小委員会　笹生博夫）

山岳スキー・アジアカップ第１戦＆韓国選手権（2013 Feb,16～17）

本年最初の大会は２月16日（土）～17日（日）、５年後に冬季オリンピックを控える、韓国の東海岸にある江原道（カンウオンドウ）平昌（ピョンチャン）、のヨンピョン・リゾートスキー場で行われ、日本から選手、監督５名が参加した。

16日はバーチカル（直線的に登る競技で体力勝負）。快晴に恵まれて午後４時半スタートした、アジアカップで初めて開かれたこの競技で、中国の若手選手が男女とも１位。日本選手は２位から５位までを占めた（日本女子は不参加）。

17日のゼネラル（本来の山岳スキー競技）は昨年より温かかったが、マイナス10℃。暗がりの中、朝６時105名の選手がスタート。途中から粉雪が舞い視界が良くない状態が続き、過酷な標高差と17kmに及ぶ距離を克服し健闘した。レースは昨年も２位の韓国の朴選手とアジアカップ４連覇を目指す北海道の三浦祐司選手の 一騎討ちの様相を見せ、最後はワールドカップから帰国したばかりの韓国朴選手を抜き、吹雪のなかゴールした。３位に伊藤吉昭選手、４位に横山峰弘選手、８位に山田宏選手が極寒の中、次々とゴールした。

尚、表彰式ではこのアジア大会では初めて「君が代」が鳴り響き感動した。（国歌が用意されていたのは驚きであった。）

しかし、この競技のことを考えると若手の養成や競技環境をよく考慮しながら進めないといずれ他国に置いていかれる可能性があること感じた。

冬季オリンピックを控え、徐々に整備されていく韓国の社会基盤。インチョン空港からソウルを通らず会場近くまでは高速道路網が整備され、途中のパーキングエリアもアウトドア、スポーツショップが並ぶショッピングモールに生まれ変わっていた。次々と国際化されていくのを見ると、一昨年オリンピック招致運動で可憐な子供達が寒い中、オリンピック委員会の評価委員の面々に、この地で一生懸命に手を振っていたのを思い出す。東京の2020年夏季オリンピック招致が成功することを願うものである。

（国際常任委員　佐伯尚幸）

史占春元中国登山協会主席の想い出

1980年、突然、中国登山協会はチベットのいくつかの山を外国登山隊に開放した。チベット側からのエベレスト（8848m）（＝中国名チョモランマ峰－以下チョモランマ峰と表記－）登頂はかつての英国登山隊が約30年間も登頂を妨げられてきた古典ルートとして登山者のロマンの地でもあった。このチベット側からの登山が日本山岳会登山隊に許可された。早速、日本山岳会チョモランマ登山隊は、北稜（当時は北東稜とも呼んでいた）と北壁から困難な登山ではあったが2つのルートからの登頂に成功した。

このヒマラヤ登山の開放は当時の中国登山協会史占春主席の開放政策の影響が大きかったとも聞いている。1980年チョモランマ登山隊は、まだ開放機運が明けきらない訪中に、飯店（ホテル）も買い物商店も限定され、紙幣も外国人しか通用しない兌換紙幣の特別待遇であった。チョモランマ登山を終えて再び北京に帰ってくると、兌換紙幣は廃止制度となり、出かける前に取り換えた兌換紙幣が使用できず、すでに交換期間も切れて戸惑うなか史占春先生のご尽力もあって人民元紙幣との交換ができたとも聞いている。私がチョモランマ北壁から心筋梗塞で北京に帰ってきたとき、史占春先生は私の体調を案じてくれて、何人かの隊員と王府井の奥にある羊肉飯店（ジンギスカン料理店）に連れて行ってもらい、「大変な登山だったね、今日は思いっきり食べなさい」と労をねぎらってもらい、優しさにも感銘した。

1980年の９月にチョゴリ日本山岳協会隊の打合せも含め、中国登山友好団として、喬加欽氏を団長として史占春、王富洲、張俊岩、羅則の各中国登山協会の役員、李友林通訳の６人が来日されました。上高地、広島といくつかの観光地を訪れ長崎空港から帰国された。日本山岳会チョモランマ登山隊でお世話になった関係で友好団のお供をさせていただいた。

上高地では同じ時期に来日されていた英国山岳会第３次エベレスト登山隊（マロリーとアービンの遭難）のノエル・オデール隊長が手をさしのべて中国チョモランマ登山隊の友好団を小雨のなか河童橋の上で迎えられたシーンはまさに歴史的ドラマを見るようだった。その後、広島では原爆ドームや厳島神社、そして福岡を経由して長崎空港から帰国の途につかれた。

1986年８月に松本で開かれた国際アルピニスト・シンポジュウムで来日の際、日本の接客不手際でご立腹されたエピソードなどもお聞きした。

1988年、中国・日本・ネパール／チョモランマ・サガルマータ交差縦走友好登山（＝三国友好登山隊）が実施され、登頂時はそれぞれの国の総隊長と秘書長が北京の総本部に待機して現地への指揮にあたった。

中国の総隊長は史占春主席、秘書長に王風桐氏、ネパール総隊長はクマール・カドカ殿下、テクチャン・ポカレル秘書長、日本は今西寿雄総隊長に神﨑忠男秘書長という面々が北京の総本部に詰めた。アタックにおいては南側からの日本隊員が頂上に到達できずに第１次ステージを終えた。ここで史占春総隊長は計画の終了を宣告する。南側からの登頂を果たせなかった日本隊に再度のチャンスを願っていた今西寿雄総隊長から異論が唱えられ、史占春総隊長との間に不穏な空気が流れた。私は私なりに不安を感じていた。1986年の松本での接客不手際による中国の不満などを含め、中国の機嫌をそこねないように、ここまで日中友好が保たれ、三国友好登山でもいい雰囲気の中で登山が実践されていたが、最後に来て少し困ったなと思い、怒られるのを覚悟して、自分なりにそれとはなしに史占春総隊長にお詫びの言葉を入れた。史占春総隊長は「言いたいことを言いあって本当の友達になれる」と優しく微笑みながら悟られた。今西寿雄総隊長も、言いたいことは、言ったから気持ちが落ち着いたよ」と後腐れのない仕草でクマール・カドカ殿下を交えて３人が楽しそうに美酒を飲む姿に感動すら覚えた。

2013年１月27日16時、北京同仁病院にて85才でご逝去され、２月２日の八宝山霊場でのご葬儀に参列させていただいた。無宗教の中国では神官も僧侶もおらず、会葬者が心よりご冥福をお祈りしながら、部屋の真ん中に安置された国旗を掛けた柩のまわりを、ひとまわりして出口でご遺族の方にご挨拶をするご会葬で古い中国登山協会の朋友と旧交を温め帰国した。

（神﨑忠男 1980年、1988年チョモランマ登山隊隊員）

史占春元中国登山協会主席のご逝去を偲び……

元中国登山協会主席史占春先生が2013年1月27日16時北京同仁病院にてご逝去されました。享年85歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。史占春先生の経歴は中国登山界の歴史そのもので、1978年、中国の山を諸外国の登山隊に開放するためにご尽力され、1980年チョモランマ峰（8848m=エベレスト）北面チベット側から最初に日本登山隊を受け入れてくれた。同年9月には日中友好登山代表団の一員として来日され、日本の登山界と深い関係に寄与していただいた。史占春先生ご葬儀の冊子から史占春先生の経歴を時系列的に振り返り中国登山界の歴史にも触れてみたい。

経　歴	年　代	山　歴
遼寧省遼陽市に生まれる（2月）	1928	
5月革命に参加　―離休幹部―	1945	
白城子、北安鉄道局労働組合宣伝部部長		
斉斉哈尔（キキハール）鉄道労働組合宣伝副部長		
東北鉄道労働組合文教副部長		
中国共産党に入党（10月）	1947	
天津市全国労働組合幹部学校学員・教員	1949	
中華全国労働組合宣伝部係長、体育部係長	1950	
	1955	ソビエトへ登山技術の勉強に赴き、中華全国労働組合登山隊を成立し、新中国登山活動の創設者であり開拓者
	1956	（4月）中華全国労働組合登山隊の隊長として31名の隊員を率いて、狭西省泰嶺山脈の太白（3767m）に登頂。中国での初めての新中国登山隊の派遣となる。 （7月）中国・ソビエト合同ムスターグ・アタ（7546m）登山隊、中国側の隊長として登頂。
国家運動健将（国家一級選手）の称号を授与	1957	ミニヤ・コンガ（7556m）登山隊を派遣。中国の登山活動を世界先進レベルに押し上げた登山。大衆の強い要請をうけ、14都市で53回の報告会、講演会開催。
国家体育運動委員会に転勤	1958	党中央と国務院の許可のもとで国家体育運動委員会は中国登山隊が3年以内にチョモランマ峰に挑戦することを決定した。
国家体育運動委員会登山課課長		
中国登山隊隊長		
訓練競技三部副部長		
中国登山協会主席		
全国文教大衆英雄大会で「全国先進功労者」称号授与	1960	5月25日朝方4時20分、史占春隊長の指揮のもと 王富州、貢布、屈銀華の3隊員がチョモランマ峰に登頂成功。人類が初めて北側よりの登頂成功。 英国、スイスに次ぐ世界第3登頂国。 貧しかった当時の中国人民に大きな励みとなった。 中国登山隊と中国卓球チームは、外国からも「人々を驚かす成績だ」と評価され、「紅旗単位」に評価され、登山探険史上、歴史的記録として永遠に登山史に残される。
山西省の国家体育運動委員会幹部学校に駐屯	1969	
リーダーとしての登山任務に期待されていた。	1973	
1987年、史占春先生は国家体育運動委員会訓練競技三部副部長を担当期間中ショート トラック・スピードスケート種目で女子チームの成績向上に貢献し、中国で初めてとなる冬季オリンピックと世界大会のチャンピオンを勝ち取った。	1975	2年後の1975年に再度のチョモランマ登山計画を古参登山隊員と検討。鄧小平首相と党中央の許可をもらった。
		再度（第2次）中国チョモランマ登山隊の派遣
	1978	5月27日潘多（パンドウ）女史と8名の男子隊員登頂 学術調査の成果も高かった。
ネパール王国と日本国国家最高指導者より国家勲章受理	1980	
国家級コーチに任命	1981	諸外国に中国の山を開放するため史占春先生が尽力。
	1985	中日友好登山に尽力する
国家体育運動委員会栄誉賞受賞（1960年と2回目）	1988	日本隊のチョモランマ峰はじめ諸外国隊にチベットの山を開放
国務院から第一期政府特別待遇を受理	1992	
体育貢献厚労省授与	1994	中日友好ナムナニ峰登山隊 中国・日本・ネパール　チョモランマ／サガルマータ交差縦走 中日合同ナムチャバルワ峰登山隊

史占春先生は中国共産党と人民に忠実を尽くし、思想上、政治上そして行動上では終始党中央との一致団結することを保った。史先生は鄧小平理論「3つの代表」と科学発展観の重要思想を真剣に学び、共産党員としての性格が強く、大局観があって、人に優しく、同僚に思いやりのある共産党員としての政治性格を発揮。そして登山事業のために30年以上貢献され、終始開拓進歩に力をいれ、長きにわたって登山の最先端で活躍された優れた登山家であり、登山界の指導的リーダーでした。

「中国登山ガイドブック」「中国の高峰」「ミニヤ・コンガ万年雪の踏破」「わが国内地の最高峰に登る」「我々は世界有名な高峰に登った」などを編集出版し、中国大百科全書体育巻登山部分の編纂を担当した。史先生が残された不朽の業績は登山史上、永久に人々の心に記念として語り継がれます。我々は史占春先生を情け深く追懐し、開拓進歩の精神に学び、時代とともに邁進する革命精神を受け継いで中華民族の偉大な復興事業のために奮闘していきたい。史占春先生は永久に不滅であります。

2013年2月2日（史占春先生葬儀の小冊子より、翻訳・趙建軍）

平成24年度 ジュニア・普及情報交換会報告

２月16日（土）国立オリンピック記念青少年総合センターにて平成24年度のジュニア・普及情報交換会が開催された。各岳連・協会で行っている少年少女登山教室の実践報告と情報交換、子どもたちにどうやって山や自然の素晴らしさを伝えていくかを考える企画である。今年は26名の参加。

初めに神﨑忠男会長から挨拶。社会に親しまれるスポーツである登山を通して子どもたちが「生きる力」を身につけ元気に成長していく、そこに我々日山協の使命がある。先日まで訪れていたカンボジアで印象的だったことは、便利さや物質的豊かさでは日本に比べはるかに低いけれども子どもたちが自然の中で生き生きと元気に生活している姿であった。我々もどんどん自然の中へ子どもたちを連れだそうと述べた。

鹿児島県　蛭川信一氏

「少年少女登山教室」は今年で11回目。最初は応募者が少なかったが、元中学校長の岳連会長が校長会で募集用紙配布してくれて色々な小学校に案内が行きわたるようになった。徐々に参加者が増え始め今年度は30名（小学生17、中学生13）にもなった。応募してきた子どもたちのほとんどが単独というのが特徴。２月２～３日で実施。大隅半島の高隅山六峰縦走。大隅青少年自然の家で開講式の後講話、午後はクライミング体験、登山の準備をして就寝。翌朝は４時に起床、バスで御岳登山口へ移動し６時から御岳、大野柄岳をピストンするコースを登った。10時間位の歩行時間だが子どもたちは元気。歌を歌ったりおしゃべりしながらどんどん歩いていく。７～８時間たつとふと沈黙の時が訪れる、この時に自然観察や読図について問いかけをするのだそうだ。先頭を歩くのは子ども、大人は後ろから付いていく、あくまでも子ども主体。どうしてもハイペースになりがちなので先頭を歩く子に時々ゆっくりペースでと指示をする。そのうちに山を歩く感覚が自然にわかってくる。

もうひとつは「かごしまクライミング少年団」。スポーツ少年団としてクライミングや登山、沢登りをする。平成21年に団員12名スタートし現在は20名。３年たってようやく挨拶、整列ができるようになった。週３回県の施設を使ってリードの練習をする。子どもたち同士でビレーをするのが特徴だ。保護者も積極的に活動に参加し、一緒にクライミングや沢登りに行く。そしてうれしい誤算は６名の若い保護者が日山協のクライミングの指導員、Ｃ級審判や国体監督の資格を取得するまで少年団の活動に入れ込んでくれたこと。

三重県　葛原義和氏

少年少女登山教室５年間の概要

８月夏休み中に行なっている、対象は小学生のみ。最初の３年間はテントに泊まり、流しソーメンやバーベキュウ、飯ごうでごはんを炊くなどのアウトドアクッキングとクライミングや登山、沢登りを組み合わせて実施した。この間の課題として、募集方法の再検討や慣れないテント泊による睡眠不足、体調不良への対応が挙がった。そしてここ２年は愛知県岳連との共催で日帰り登山を行なっている。このことで参加する子どもたちの人数が増えワイワイ山に登る雰囲気が作られた、そして違う県の子どもたちと交流ができた、違う岳連との交流で発想の幅が広がるなどのメリットが生まれた。

今年度は８月25日（土）朝明茶屋からハライド登山そして滑滝でシャワークライミングを楽しんだ後、焼きそばや果物を食べ懇親を深めた。

今後、登山教室を通して遭難防止や安全確保、自然保護の意識を持たせたい。

埼玉県　長谷川茂氏

今年度初めて「秩父夏休み親子自然教室」を実施した。募集広告を県民だよりに掲載したところ最初50家族から問い合わせが来た。やはりこういったメディアは広報性がある。

費用は１人１万円と他県の登山教室に比べ割高。しかし安ければ参加者が増えるわけではない、その金額に見合うだけの充実した内容であることを強調した。それと岳連のスタッフがガソリン代までも持ち出しでこの様な企画を実施するのは適当ではないという意見もあってこの金額になった。

要項にはスケジュールのほかにスズメバチなどへの対症法も盛り込んだが、初めて親子で登山教室に参加しようとする人には刺激が強すぎて逆効果になってし

まった。あくまでも「安全で楽しい」を強調した内容にしていったほうが参加者が増えたかもしれない。ということで実際に応募してきたのは８家族であった。

８月10日、秩父にある「岳人の家」に集合。ここは小学校の分校だったものを埼玉県岳連が委託され管理している施設である。開講式の後、流しソーメンを食べ三峰神社に参拝、夜は星の観察をしテントに泊まった。11日は霧藻ヶ峰ハイキング、下山後温泉カレーライス作り。12日は山遊び体験。子どもは竹の水鉄砲作り､親はチェーンソーで丸太椅子作りを行なった。そして閉講式。

今回は高校山岳部の生徒数名がスタッフとして参加した。これが大成功。子どもたちはおにいさんたちと遊べて大喜びであった。生徒にとっても子どもたちを指導することが自身の成長につながるのでとてもよいことだと思う。

日山協　西内博氏

今年で３度目となるジュニア登山教室 in 立山。今年は39名の小中学生が参加､うちリピーターが15名。初日のアイスブレーキングゲーム「森の中のポイントさがし」で足首を捻挫した中学生が１名。コースには役員がいたが子どもの動きは想定外であった。２日目は立山カルデラ砂防博物館でピンポン玉15000個の雪崩実験とクライミング体験。

３日目、雨の中の立山登山。上級生は雄山、下級生は室堂周辺のハイキング。夜はキャンプファイヤー、今年は子どもたちに出し物を考えさせた、結果盛り上がった｡主体性を持たせることは大切｡今年のアンケートでは「たのしかったこと」・「がんばったこと」・「つらかったこと」すべてのトップが山登り。長時間ひとつの事に向かってあきらめずに行動することで達成感を得られる、登山の一番良い所であろう。

花咲く季節にトルコの2つの世界遺産をじっくり歩く
トルコの世界遺産カッパドキア・ハイキングと
東西文明の十字路イスタンブールを歩く10日間
発着地 東京・大阪
出発日 4/5(金)・4/26(金)・5/17(金)・6/7(金)
旅行代金 ¥342,000～¥436,000
※燃油サーチャージ(2013年2月1日現在:目安約44,000円)が別途必要です。
観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員　◎ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

山と溪谷社　久保田賢次氏

日本山岳遺産基金について

11月15日第３回目の山岳遺産サミットを開催。野口健氏の特別講演。2012年度の山岳遺産地は北海道の夕張岳、岩手県の七時雨山、広島県の臥龍山。それぞれ地元の有志団体が自然保護の地道活動をしていることが評価された。

「週刊ヤマケイ」無料の山情報の電子雑誌、見ている人が多いので少年少女登山教室の募集や宣伝に大いに利用していただきたい。

報告会後の懇親会には21名が参加。自己紹介や現在のジュニア育成の取り組みなど話し合えた有意義なひとときであった。

今年度の「少年少女登山教室」の申請は17都道県、来年度はもっと増えることを期待しています。

（記　谷口浩平）

第51回 海外登山技術研究会報告

第51回海外登山技術研究会は、２月23日（土）～24日（日）に八王子大学セミナーハウスに於いて開催され、全国から70名が参会された。

昭和37（1962）年から日本山岳協会主催、日本山岳会主管で始まったこの研究会、昨年で50回を迎えたが、記念研究会ができなかったため今年度の51回で行うことにした。テーマは「研究会50年を振り返る」。

50年を振り返るにあたり年代別テーマを決めて行った。各セッションの総合座長はテーマ提案者である日本ヒマラヤ協会会長であり、今年度の山岳グランプリを受賞された山森欣一さんにお願いした。

１.発足の経緯　講師　松田雄一氏
２.研究会の時代　1963年～1977年講師　松田雄一氏
３.大衆化と先鋭化・二極分化の時代　1978年～

1986年　講師　山森欣一氏
4.ＡＰ・無酸素・冬季の時代　1987年～1992年　講師　八木原圀明氏　浅野勝己氏
5.高所遠足と環境の時代　1993年～2002年　講師　尾形好雄氏
6.新しい潮流への時代　2003年～2012年　講師　加藤富之氏
7.アピ登山隊2012報告　講師　鳴海玄希氏

この後、池田常道氏がまとめた、「2012年主な海外登山状況」の発表を行った。

最後にセミナーハウスのセンター棟近くで記念撮影を行って解散となった。

久しぶりに八王子大学セミナーハウスで行った海外登山技術研究会であったが、盛況であった頃の講堂ではなく、90人収容の大学院研修セミナー室で行った。現在の参加者は最盛期の半分以下となっている。今後、この研究会をどのような内容で運営していくかが節目を迎えた海登研の大きな課題である。

（国際委員長　佐藤光由）

募集！ オーバーナイト・テントフォーラム

気楽に楽しくちょっぴり体験型安全登山教室です。

日　時　４月20日（土）～21日（日）
場　所　秩父・長瀞　長瀞げんきプラザ
募　集　先着50名
講　師　日本山岳レスキュー協議会メンバー
参加費　5,000円（20日夕食、21日朝食含む）
申込み　日本勤労者山岳連盟内
　　レスキュー協議会テントフォーラム事務局
　　FAX：03-3235-4324
　　TEL：03-3260-6331

JMA 平成24年度２月（25年２月）常務理事会報告

日　時　平成25年２月７日㈭
　　17：30～20：15
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、内藤、八木原、松元副会長、尾形専務理事、西内、佐藤、石倉、北山、相良、寺内、永井、堀井各常務理事
委　任　國松副会長、仙石、高山、水島、谷口常務理事
　　以上、13名出席

１.専門委員会動静

１月常務理事会以降
（１月11日～２月６日）
［報　告］
⑴競技委員会
　１月18日㈮　出席者15名
ア　１月常務理事会報告
イ　第３回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告
・39都道府県から168名参加（男子67校98名、女子48校74名、男子団体28校、女子団体22校）
・第４回大会は平成25年12月22日～23日を予定
・第５回大会は会場変更を検討
ウ　日本選手権大会マムートカップ報告
エ　第８回ボルダリング・ジャパンカップの準備状況について
オ　アイスクライミング・ジャパンカップについて
・平成25年度大会打合せ（2/15、北海道下川町）
カ　国体後催県の準備状況について
キ　競技委員会ブロック別研修会の講師派遣について
ク　国体特別研修会の講師について
・長崎：2/3、高山、和歌山：3/16、西原
ケ　平成25年度事業計画及び予算案について
コ　クライミングウォール、ボルダリングウォールの欧州規格の適用について
サ　平成25年度以降のブロック研修会の開催方法について
シ　ブロック代表の選出方法について
ス　平成25年度の競技委員会組織について
⑵自然保護委員会
　１月19日㈯　出席者10名
ア　12月常任委員会・臨時委員会の議事録確認
イ　１月常務理事会報告
ウ　平成25年度事業計画について
エ　平成25年度予算案について
オ　山岳自然保護の集い・中央大会実施要項について
カ　長野県山岳協会主催の山のセミナー講師派遣について
・松隈副委員長を派遣
キ　自然保護指導員関連について
ク　山岳団体自然環境連絡会（1/29、労山）について
ケ　神奈川県山岳連盟「山の自然セミナー」（2/16～17）について
⑶医科学委員会
　１月19日㈯　出席者11名
ア　12月常務理事会及びプロジェクト会議報告
イ　平成25年度事業計画について
ウ　事業ワーキンググループへの提案テーマについて
⑷遭難対策委員会
　１月30日㈬　出席者11名
ア　積雪期レスキュー講習会の反省
イ　日山協プロジェクトの進行状況
ウ　最近の遭難事故について
エ　平成25年度事業計画について
オ　オーバーナイト・テントフォーラム（4/20～21）について
カ　常任委員研修会（5/11～12）について
キ　日中韓技術交流へのイラン参加について

ご存知ですか？

～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～
「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

《正式名称：傷害総合補償保険特約付普通傷害保険》

約52%割引!!

●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。（パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。）

この保険の主な補償内容

・登山中のケガで死亡された場合　（※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。）
・登山中に遭難し，遭難・捜索費用や救援者費用が発生した場合　　等
なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

この保険のご加入条件

●この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。
お申込人（＝被保険者（補償の対象者））となれる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」のみとなります。
●会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のしおり」をご確認ください。（毎年別途会費が必要です。）

補償内容・保険料表（詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。）

～「登山コース」の保険料例～

入院補償付タイプがおすすめ!
昨年からの１年間*で**入院は１７１件**、通院は304件のお支払い事案がありました。（*平成23年10月１日～平成24年10月１日の支払実績）
１Bセット・１Cセットなら、１年間１万円前後の保険料でケガによる入院にも備えることができます!

職種級別Ａ

（１）保険始期日が４月１日の方

〈「登山コース」〉

保険金額	契約基本タイプ							
タイプ名	１S	S	１B	B	１C	C	１E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円	なし	1000円	なし	1500円	なし	2500円	なし
入院を伴う手術保険金※1	○		○		○		○	
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	１億円	１億円	１億円	１億円	１億円	１億円	１億円	１億円
保　険　料	**6,450円**	**3,900円**	**8,260円**	**5,710円**	**11,540円**	**7,720円**	**23,940円**	**17,570円**

※1　手術保険金は，入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍，20倍，40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

通院補償付タイプがおすすめ!
昨年からの１年間*で入院は171件、**通院は304件**のお支払い事案がありました。（*平成23年10月１日～平成24年10月１日の支払実績）
Ⅱセット・新設のⅢセットなら、ケガによる通院にも備えることができます!

職種級別Ａ

（１）保険始期日が４月１日の方

〈「ハイキングコース」〉

新設しました！

保険金額	契約基本タイプ		
タイプ名	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
死亡・後遺障害	１５０万円	２５０万円	３００万円
救援者費用	３００万円	３００万円	５００万円
賠償責任	１億円	１億円	１億円
入院保険金日額	２，０００円	４，０００円	５，０００円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍，20倍，40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	１，５００円	２，５００円
保　険　料	**２，１４０円**	**５，４７０円**	**７，５４０円**

●「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。
一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山（ハイキング等）中の事故を対象としています。
●このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
●どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。（全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。）
●保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
●保険期間は平成25年4月1日～　平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10:00 ～ 17:00（土・日・祝祭日除く）
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3－ 7－11－707
電話 03－5958－3396 FAX 03－5958－3397
Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ホームページ http://sangakukyousai.com

契約者：日本山岳協会山岳共済会
取扱代理店：瀬田工業有限会社
引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社
承認番号：B12-102339　使用期限:2014.4.1

ク　スカイプ会議の件
・指向性のない電話会議用マイクが必要
⑸普及ジュニア委員会
　１月31日㈭　出席者８名
ア　平成25年度中高年安全登山指導者講習会引継ぎ会議の報告
イ　平成25年度予算編成会議の報告
ウ　ジュニア普及情報交換会の準備について
エ　ジュニア登山教室「那須甲子雪遊び隊」について
・告知及び参加者募集方法について
・2/23の下見打ち合わせについて
オ　平成25年度中高年安全登山指導者講習会の講義内容について
⑹広報委員会
　１月31日㈭　出席者８名
ア　『登山月報』２月号の編集について
・新春懇談会報告
・海外登山女性懇談会報告
・変わる！ 日山協
・ジュニア登山教室「那須甲子雪遊び隊」予告
・レスキュー講習会（積雪期）報告
・第３回日本山岳グランプリ受賞
・委員長・副委員長会議報告
・山の切手シリーズ第２弾
・Mountain World
・ＪＭＡ
⑺指導委員会
　２月４日㈪　出席者９名
ア　１月常任委員会の議事録確認
イ　１月常務理事会報告
ウ　指導常任委員研修会（2/2～3、谷川岳）について
エ　ＳＣ指導者養成講習会報告
・長崎後半（1/13～14）
オ　スポーツ指導者管理システムについて
カ　平成24年度指導者養成講習会アンケートの件
キ　指導者認定申請
・ＳＣ指導員：長崎11名、北海道２名、愛知14名
ク　AC登攀技術研修会（三重）
・主任検定審査：５名
・上級指導員：１名は保留
ケ　氷雪技術研修会（大山）について
コ　氷雪技術研修会（富士山）について
サ　ハイキングリーダー制度について
・３月常務理事会で中間報告

２.その他の重要事項
（１月11日～２月６日）
［報　告］
⑴組織ＷＧ会議　１月12日㈯
　於：日山協事務局　神﨑会長、八木原副会長、西内、寺内常務理事、森下、北村
⑵ＳＣ指導者養成講習会
　１月13日㈰～14日㈷　於：長崎
　永井常務理事
⑶「森を走ろう2013」シンポジウム
　１月14日㈷　於：立正大学大崎キャンパス　八木原副会長
⑷参与・鈴木博氏（山形）ご逝去。享年73歳。　１月14日㈷
⑸アマチュアスポーツ新春懇談会
　１月16日㈬　於：ＮＨＫ
　尾形専務理事
⑹第62回日本スポーツ賞表彰式
　１月18日㈮　於：ホテルオークラ東京　尾形専務理事
⑺顧問・参与会　１月19日㈯
　於：アルカディア市ヶ谷
　神﨑会長ほか37名
⑻2013新春懇談会　１月19日㈯
　於：アルカディア市ヶ谷
　神﨑会長ほか153名
⑼平成25年度中高年安全登山指導者養成講習会引継ぎ会議
　１月21日㈪
　於：岸記念体育会館　神﨑会長、尾形専務理事、仙石常務理事
⑽平成24年度特例民法法人概況調査票を文部科学省に提出。
⑾レスキュー講習会（積雪期・西部地区）　１月25日㈮～27日㈰
　於：国立登山研修所　町田常任委員ほか
⑿組織ＷＧ会議　１月26日㈯
　於：日山協事務局　内藤、八木原副会長、西内、寺内常務理事、森下、北村
⒀元中国登山協会主席・史占春氏逝去。享年85歳。１月27日㈰
⒁山岳７団体自然環境連絡会
　１月29日㈫　於：労山事務所
　石倉常務理事、徳永常任委員
⒂平成25年度予算編成会議

寄贈図書

寄贈本	山と渓谷社	『山の仕事、山の暮らし』高桑信一 著
	(公社) 日本山岳会茨城支部 酒井國光	『茨城の山事典』酒井國光 編著
雑誌	東京新聞出版部	「岳人」№789 2013MARCH
	山と渓谷社	「山と渓谷」№935 2013 3月号
会報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第548号
	(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」2013 2月 №418
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第302号
	横浜山岳会	「山」2013年2月 968号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第401号
	(公財) 全日本ボウリング協会	「JBC news」第495号
	日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2013.2.10. №280
	Corean Alpine Club	「山」Vol.229 2013 February
	Korean Alpine Federation	「Korean Alpine News」Vol.06 DEC.2012
	(財) 尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」Vol.20
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」№457
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第44号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」2013 February vol.170
	(独)日本スポーツ振興センター国立スポーツ科学センター	「JISS News Letter」Vol23
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」160号 2013新春
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.90 No.996
	モンベル	「OUTWARD」№59
	横浜山岳会	「山」969号 2013年3月
	スポーツこころのプロジェクト運営本部	スポーツこころのプロジェクト新聞「笑顔をありがとう」第4号

1月29日㈫～30日㈬　於：岸記念体育会館　内藤副会長、尾形専務理事、相良常務理事ほか

⑯財政ＷＧ会議　1月30日㈬
於：岸記念体育会館　内藤副会長、尾形専務理事、相良常務理事、小野寺事務局員

⑰参与・前嶋信氏（元山梨県山岳連盟会長）逝去。享年80歳。
1月30日㈭

⑱元中国登山協会主席・史占春氏葬儀　2月2日㈯　於：中国北京・八宝山霊場　神崎会長

⑲関東地区山岳連盟会議
2月2日㈯～3日㈰　於：東京・晴海　内藤副会長、尾形専務理事

⑳関東ブロック競技研修会
2月2日㈯～3日㈰　於：神奈川県山岳スポーツセンター　土屋、山本常任委員

㉑長崎国体競技特別研修会
2月3日㈰　於：長崎県大村市
高山常務理事

㉒「山のセミナー」（長野県山岳協会主催）　2月3日㈰　於：長野県山岳総合センター　松隈常任委員

㉓第9回スポーツと環境担当者会議
2月4日㈪　於：味の素トレセン　石倉常務理事、松隈常任委員

3.議　事

(1)平成24年度1月常務理事会議事録の承認について（承認）
(2)平成24年度評議員会議案について（一部訂正で承認）
(3)平成24年度事業経過報告について（提案通り承認）
(4)平成24年度会計経過報告について（提案通り承認）
(5)平成25年度事業計画（案）について（提案通り承認）
(6)平成25年度収支予算（案）について（提案通り承認）
(7)平成24年度山岳共済会事業経過報告（提案通り承認）
(8)平成25年度山岳共済会事業計画について（提案通り承認）
(9)平成25年度山岳共済会予算案について（提案通り承認）
(10)ＷＣＭの支援について（承認）
(11)山岳スキー競技世界選手権及びアジア選手権大会への派遣について（承認）
(12)UAAA創立20周年記念事業について（承認）
(13)報告事項
ア　会計月次報告
イ　新春懇談会及び顧問・参与会の報告
ウ　ＷＧの進捗状況について
エ　広報パンフレットについて

4.後援、協賛等の依頼について

ア「被災した東北の高校生を日本一の富士山へ」の後援名義について（田部井淳子/日本山岳遺産基金主催）（承認）
イ　2013 NamBa HIPS Cup大会の後援名義について（御堂筋にぎわい空間づくり実行委員会主催）（承認）
ウ　カンボジアの登山・スポーツクライミングの指導・支援依頼（カンボジア・クライミング連盟）（神崎会長の訪問時に協議して貰うことで承認）

5.報　告

(1)自然保護指導員の承認
な　し
(2)指導員の認定承認
①ＳＣ指導員
・尾形和俊、吉田慶太、竹田昭子、松尾智子、足立淳子、山上大輔、松田直樹、清川洋光、江口かおり、林幸広、泉有輝信（以上11名、長崎）
・早川政志、噸瀬一弘、三浦真理子、水口正弘、田嶋則之、今井典子、篠原克典、杉本憲広、佐橋秀男、日置昇、田山幸生、豊場恒司、大山史洋、田中周兵（以上14名、愛知）
・鈴木克幸（北海道）以上26名を承認
②ＳＣ上級指導員
な　し
③アルパイン指導員
な　し
④アルパイン上級指導員
な　し

6.連絡事項

①平成24年度3月常務理事会
2月28日㈭　17:30～
（岸記念体育会館103号室）
②平成24年度評議員会
2月17日㈰　10：30～14：30
（ＴＫＰカンファレンスセンター）
③第2回理事会・臨時総会
3月10日㈰　10：30～14：30
（岸記念体育会館101～103号室）
④平成25年度4月常務理事会
4月11日㈭　17：30～
（岸記念体育会館103号室）
⑤平成25年度5月常務理事会
4月25日㈭　17：30～
（岸記念体育会館103号室）

編集後記

登山は天気に大きく左右されるスポーツ。最近の気象は変化の度合いが早く、激しいのが特徴だ。春山シーズンを迎え憧れの雪稜へと思うが、メリハリある判断と行動が安全登山につながるのでは。桜の開花が待ち遠しい。　（広報担当　水島彰治）

登山月報　第528号
定　価　100円（送料別）
予約年間1,200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月1回15日発行）
発行日　平成25年3月15日
発行者　東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
ＦＡＸ　03－3481－2395

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 上野原トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭